

コメントに対する議論 I

前川英樹

いずれも難問でありまして、地上波のデジタル化以上に難しいと思っておりますけれども、先ほどの加納先生のコメントと絡み合わせながら、先ず、最初にテレビ局は、コンテンツ制作は最後の牙城かというあたりから、感想といたしますが、今のお話を伺いながら思ったことを申し上げたいと思います。

例えば、なぜ日本で専門チャンネルがないのか、ということも含めてになりますが、コンテンツは1度つくったら終りというものではなくて、どうやって再生産構造を継続していくか。再生産ということですから継続ということなのですが、それが成立するか、しないかそれが最も重要な問題です。日本の場合、もっともコストを投下して制作しているコンテンツは、一般的にいうとテレビ番組です。ところがこれがフリーテレビという直接消費者が対価を支払わない型の市場に最初に出てしまいますから、そういう意味では2次利用というのが非常にできにくい。これは先ほど見ていただいた図ですけれども、(図8, 17頁)つまり2次流通市場というのは全体の市場の1割強しかないのです。

アメリカでいうと、一体どのくらいのシェアか別にして、例えばハリウッドで映画を1本つくった時に、フリーテレビが1番最後になります。例えば劇場で公開される、それから飛行機やホテルの上映、ビデオがある、最近ではダイレクTVなどの有料衛星チャンネルもがある、CATVのペイチャンネルがある。それからCATVのペイシックなチャンネルがある、などなど国内と海外で10段階位でコストを回収するというように、再生産構造が全く違うのです。

そういうことから言いますと、私は日本のテレビ局の、最後の牙城がコンテンツ制作であることが、日本の映像産業にとっては非常に不幸になってしまっている。例えば fiber to the home という仕組が、to the home ですから家庭ま

でということになり、その大容量のインフラができた時に何を流すのか。結局テレビの再送信しかないということになりはしまいか、テレビ局側から見たら新しい流通システムとしていいかもしれない、だけど全体的に日本の映像コンテンツ産業、あるいは視聴者、消費者の選択肢からいったら不幸な構造になっているのではないかと、ということがあります。

この日本の2次流通市場の小ささをどうするのか。さっき言ったアメリカでいうと10段階というのは、それぞれを窓と言う意味で、ウインドウビジネスとありますが、日本でもう少しウインドウが増えないかなと思います。これはありえなかったかもしれませんが、テレビ番組の有料マーケットがもっと早く成立したかもしれない唯一のチャンスは、BS-3段階でNHKがBSを始めて、WOWWOWが参入する時にNHKの衛星放送というのを受信料制度ではなくて、NHKから切り離して、相当危険な話を今していますが、完全にNHKと切れた有料放送事業にすることだったかもしれません。広告をやると民放にとって危険であり、今日代理店の方がいらしているので、魅力的というかもしれませんが、そこは民放のエゴで言えば切っておいて、有料放送をする衛星放送事業を始めたとすれば、今のBSが、有料放送ベースの市場になるチャンスがあったかもしれない。そこはそうしなかったわけですから、ここで1つチャンスを逃したという気はします。

そういう意味で、どうやったら日本のコンテンツが重層的に形成されて、そこでコンテンツ、ソフトが流れることで再生産構造というもの形成されるかどうかという問題があります。今、日本ではオリンピック放送というのは、ジャパンプール方式とあって、NHKと民放が放送権をシェアしていますが、例えばさっきマドックの例が出ましたけれど、巨額の金を放送権獲得に投下するだけの企業家が登場する可能性はあります。その人が放送権を独占的に持ってしまふ、そういうことを年にいくつかのビッグイベントを買い占めてやっていくということは、あるかもしれません。しかし、そういうこととは別

にコンテンツの流通を構造的に変えていけるのかということが、問題になると思います。

例えば、これはありうるかという話でいくとなかなか難しいかもしれませんが。TBSは昨年から分社という形で制作部門を別会社にしました。今は、過渡的ですから分社制作のコンテンツの著作権というのは、本社が管理をする。つまり本社の編成権の確保ということがあります。しかし、これがもしも将来、もう少し流動的な状況になった時に分社側がコンテンツの権利を持つというのが、日本のコンテンツ制作産業にとっていいだろう。そして、一方では今の放送法の下での放送局のありようも規制を緩和して、局側、親会社側が地上波以外の例えばBSとかCSとかCATVとか他のメディアビジネスにもっと自由に参入する。つまり今は放送局同士の出資規制とかそういうことがあって参入できないわけですが、そこをもっとフリーにしてしまう。

これは不公正な競争なのかというのは別の議論ではありますが、結局ところ規制緩和して、競争原理で市場を形成していくということになれば、寡占的な構造に1度は行くわけです。放送産業がそれに馴染むのかどうかというのが、コンテンツをどう転がしていくかということに、大変重要な関わりを持つのではないか。この問題を一度ちゃんと議論すべきだと思ったのが第1点です。第2点は例えばさっきの、高橋先生の圧縮技術に関することで、誰でも情報発信者になってしまったら、放送はいらないのではないか、ということがあります。それにつきましては、先ほど私は時間がないので省略しましたが、(図15、25頁)つまり上からマスと個、パーソナルという意味ですが、そこに情報源と書きました。つまり今、民放は世界中にそれほど多くの情報拠点を持っていますが、それでもいくつかの拠点があります。だけど先程の簡易映像で送る、ネットで送るなり、無線で送るなり、そういう情報の送られ方はどんどん増えてくるでしょう。正しく誰もが情報発信者になってくる。そういう情報源と今のマスメディアの持つ情報源、つまりマス系とパーソナル系、それをどう組み

合わせるかということが極めて重要な放送局側の課題になっていくだろう。

放送局は要らないのかというと、私はここでは1番下にあります。多様化と信頼、つまりそういうさまざまなパーソナルなものの中でその情報がどう信頼されていくか。つまり仮にいろいろなインターネット上で、事件報道等が出た時にそれは誰が発信しているのか、そこに例えばCBSと書いてあった、あるいは共同通信と書いてあった、書いてあるから信用していいのか、それが本当にそうだったのかという問題が必ず起きます。これは逆にある種のリスキーな要素を常に持っている。テレビがそれほど信頼できるかということ、先ほどそれほど信頼できるかどうかは皆さん次第だと、ある種の美人投票論だと申し上げました。恐らくあそこは信頼できるだろうと思っている人が多くなっているところが、信頼されていくようなことがあります。擬似的な要素というのが必ずマスメディアの中にあるし、その危険性というのは、我々は充分承知しないとイケない。だけど現実には、やはり6チャンネルであったり、4チャンネルであったり、1チャンネルであったりというところから流れてくることに、ある種の秩序感覚を持った情報空間というのが成立していると思うのです。

これは私はある意味では危険だと思います。何が危険かということ嘘の情報だということではなくて、例えば世界貿易センタービルの映像を私はちょうど10時に家に帰って、まさにその時見ました。本当かな、つまりテレビでやっているのだから本当だろう。でも、誰もそれを証明できない。その時に経験するのはある種のバーチャル感覚です。しかし、それであってもテレビという媒体がつくり出すそういう生活意識空間というのを、インターネットはつくれるのかといたら、私はそうではないだろうと思うのです。

もう一つ先ほどいい足りない部分を、補足をする形で言いますと、総合編成というものが何で大事かといいますと、少なくとも当面のメディア構造でいえば、我々はより多くの人に同時に見ていただくビジネススキームでやってきている。そのスキームの中に事件事故、重要な情報が入ることによって、よ

り広くの人がより早く簡便に重要な情報に接することができる。これを個別の情報だけに分断した時には、共通意識というものが、どういうように形成されていくか、というところは今のところやはりまだ見えない、と思うのです。編成権と安定的供給路、この二つがテレビの基本だと思います。

テレビが必ず絶対未来永劫不滅だということでは言うておいておらず、今、テレビジョンの持っている機能がこれからどういう状況で、どの部分が他のメディアに代わっていくのか。最後にテレビジョンに残るのは何なのか、ということを考えるのがリテレビジョン (Re-TELEVISION) ということだと思います。先ほどの、お二方の質問でリテレビジョンということに注目して下さったことは問題提起者としては、大変ありがたいと思います。

例えば、あらゆる地点から情報を送り出せる機能を持っているということも、テレビジョンに最後に残ることかと思っています。たしかにコンテンツ制作というのはテレビ産業にとって極めて重要であり、また著作権問題をクリアしないとデジタル時代がこないし、そこをクリアするとメディアが増えれば増えるほどコンテンツ制作部門を持っているテレビ局は有利だということは、直近のことで言うと確かに悪くないと思うけれども、テレビ機能論とさっきの日本の映像産業構造を変えるということとを合わせて考えると、コンテンツ制作だけに頼っていくということはテレビ局にとっては必ずしもその未来、将来を担保することにはならないと思います。